notta

ボイスレコーダー製品レビュー：議事録作成と情報セキュリティの観点から

月曜日 2026.11.23 13:27 · 9mins

AI要約

NOTTA MEMO Type-Cレビュー記事の意見交換

第一印象と業務での使い勝手

フリモメンは、記事にある厚さ3.5ミリ、五百円玉一枚ほどの重さ、名刺より少し大きいサイズ感に注目。スマートフォンの背面に付けたまま使えるため、営業同行時に録音機器を取り出す手間が省けそうだと評価した。

議事録作成では、現在はスマートフォンで録音し、PCへ転送して文字起こし、整文、要約を行っている。工程が多く、1時間の会議の議事録完成までに会議時間の倍ほどかかる場合もあるという。記事に記載された「1時間の音声を約5分で文字起こし・要約」という性能と、録音後にType-CでPCへ接続し、ブラウザでNOTTA WEBを開いてアップロードする流れに関心を示した。会議間の時間が短い場合、転送待ちを減らせる点が魅力として挙がった。

有線転送速度は記事に「最大800キロバイト」とあるが、キロバイトかキロビットかで速度の解釈が異なるとの指摘があった。記事の筆者は実際の待ち時間をほぼ感じなかったとしている一方、気になる場合はメーカーの公式仕様を確認するのがよいとの意見が出た。

録音品質・セキュリティ・利用上の注意

記事によると、マイクは四つで360度から集音し、AIノイズキャンセリングに対応。通話録音用の骨伝導マイクも別に一つ搭載している。記事では、テーブルに置いた状態で離れた人の声を拾い、話者を区別して文字起こしした例が紹介されていた。話者分離は、議事録作成時に発言者を特定する負担を減らす点で評価された。

一方、テーブルの振動を通じて資料を置く音や手をつく音なども拾う可能性があり、記事では下にマットを敷く方法が勧められていた。フリモメンの職場の会議室は長いスチール製の机で、振動音を拾いやすそうだとの懸念があり、マットが必要そうだと述べた。

ポロンは、録音ファイルをUSBストレージとして取り出す方式では、機器を紛失した際に音声を聞かれるリスクがあると指摘。また、USBストレージの接続を禁止する企業もあるため、USBメモリとして認識されずブラウザ上で完結する設計は、そうした環境で使いやすい可能性があると評価した。フリモメンの職場ではUSBメモリの使用が禁止されており、以前、個人のICレコーダーの音声を会社PCに移せず、スマートフォンで録り直した経験がある。

ポロンは大学での利用場面としてゼミのディスカッションやグループワークを挙げた。話者を区別できれば、誰がどのタスクを担当すると発言したかを後から確認しやすいとの見方だった。一方、講義の録音は教員が禁止している場合があり、講義内容は教員の著作物でもあるため、録音するなら事前許可が前提とした。技術的に録音可能であることと、録音してよいことは別だとの認識が示された。

翻訳・記事全体への評価

ポロンは、記事で試されたスティーブ・ジョブズのスピーチの翻訳と概要生成について、文字起こしが明瞭で概要も内容に沿っていた点を評価した。記事には58言語対応と記載されており、英語論文や海外カンファレンス動画に触れる機会のある大学生活でも関心があると述べた。

フリモメンは、議事録担当者の視点に共感できる記事だったと評価。振動音やスマホリングなど、実際に使わないと分かりにくい点が書かれていたことも評価した。ポロンは、スペックや技術中心ではなく実利用者の視点で書かれている点を新鮮とし、製品と運用の両面から扱うセキュリティの記述は卒論の参考になりそうだと述べた。

アクション項目

フリモメン：上司に記事のリンクを送る。

文字起こし

本日はお集まりいただきありがとうございます。今日はブログ残念パパさんのNOTTA MEMO Type-Cのレビュー記事を読んでいただいたお二人に率直な感想を伺います。

まずは簡単に自己紹介をお願いします。

Powered by Notta.ai

フリモメンです。メーカーの営業企画部で働いていて、今年で三年目になります。いきなりなんですけど、部署で一番下なので、会議の議事録は大体僕の担当です。

ポロンです。大学で情報システムを勉強している三年生です。ゼミでは情報セキュリティを扱っていて、それに近いテーマで卒論を書く予定です。

ガジェットは好きですが、ボイスレコーダーを真剣に調べたのは今回が初めてです。

社会人の方と学生さん、立場がだいぶ違うので面白い話になりそうです。それではまず記事を読んだ第一印象から聞かせてください。フリモメンさんからどうぞ。

一番に思ったのは薄です。厚さ三点五ミリで、重さは五百円玉一枚くらいって書いてありましたよね。名刺よりちょっと大きいくらいのサイズ感で。

ほぼクレジットカードサイズですよね。

そうなんです。僕のイメージだと、ボイスレコーダーってもっと棒っぽい形で、胸ポケットに差すものだったんですよ。これならスマホの背面に付けっぱなしにできるじゃないですか。

営業同行の時にちょっと録音しますねって、わざわざカバンから機械を出さなくていいのは大きいです。

ポロンちゃんはどうでしたか？

はい。普通のレコーダーだと PCに挿したら音声ファイルがそのまま見えますよね。便利ではあるけど、裏を返せば拾った人も中身を全部聞けてしまう。会議の録音を入れたまま落としたらそれだけで情報漏洩です。

ああ、正直そこは考えたことなかったです。

それに企業は DLP、つまり情報漏洩対策として USB ストレージの接続そのものを禁止していることが多いんです。授業でも外部記憶媒体の制御は基本中の基本として習いました。

USB メモリとして認識されない上に、ブラウザだけで完結するなら、そういう制限をかけている会社でも使いやすいという設計の意図はよくわかります。

フリモメンさんの会社はどうですか。

うちまさにそれです。 USB メモリを挿しても使用禁止のポップアップが出て何もできません。

だから以前、個人の IC レコーダーで撮った音声を会社の PC に移せなくて詰んだことがあって、結局スマホで撮り直したんですよ。

それは典型的なパターンです。

お二人ともありがとうございます。では、次のテーマですが、フリモメンさん、議事録作りは普段どういう流れでやっているんですか？

今はスマホのボイスメモで録音して、会議が終わったら PC に送って文字起こしツールにかけて、出てきたテキストを整えて、要点をまとめてという感じです。

工程が多いので、一時間の会議だと議事録が仕上がるまでに倍くらいかかる時もあります。

記事では一時間の会議音声が約五分で文字起こしと要約まで終わるとされていましたね。

そこです。あと地味に刺さったのが、録音を終えたらタイプ C で PC に挿して、ブラウザでNOTTA WEBを開いて、そのままアップロードできるという流れです。早いんですよ。とにかく。

地味だけど効く部分ですね。

本当にそうです。会議が終わった直後って、次の会議まで十五分しかないみたいなことがよくあるんですよ。その間に転送の進捗バーをじっと見ているのはつらいです。

ちなみに有線転送が最大八百キロバイトですって書いてあったんですけど、あれ、単位が小文字のキロバイトなんですよね。キロビットなのかキロバイトなのかで速さが八倍違うんです。

え、そうなんですか。

Powered by Notta.ai

ビットとバイトの違いですね。ただ、音声ファイルはそこまで大きくないですし、筆者さんの体感では待ち時間がほぼないとのことなので、実用上は問題ないんだと思います。

気になる人はメーカーの公式仕様を確認した方がいいかなくらいです。

さすが細かいところまで見ていますね。次は録音の品質です。マイクの構成についてはどう読みましたか？

マイクが四つで三百六十度から集音して、 AI ノイズキャンセリングにも対応。それとは別に通話録音用の骨伝導マイクが一つという構成ですよね。

マイクはスマホにも入っている小型のマイクで、複数並べるとどの方向から音が来たかを推定しやすくなるんです。

記事でもテーブルに置いたまま離れた人の声までちゃんと拾えたと書いてありましたね。筆者さん自身の小さい声も話者を区別した上で文字起こしされていたとか。

話者分離は嬉しいですよね。議事録で一番面倒なのは誰が言ったかの整理ですから。

本当にそれです。会議の後半になると、今の発言課長だったっけ、部長だったっけ？ってなるので。

一方でデメリットとして挙げられていたのが振動音でした。

あれはリアルでしたね。テーブルを伝わってくる振動、例えば資料を置く音とか、手をつく音まで拾ってしまうと。それで下にマットを敷くのがおすすめと。

感度が高いことの裏返しなんだと思います。高性能なマイクほど拾わなくていい音まで拾ってしまう。

うちの会議室、机が長いスチール製なんですよ。誰かがペンをコンって置いただけで響くので、多分もろに拾います。マットは必須ですね。 百円ショップのコースターでもいけるのかな。

記事を読んですぐ自分の環境に置き換えて考えられるのはいいですね。筆者さんはスティーブジョブズのスピーチの前半十分を録音して。翻訳と概要生成も試していましたね。ポロンちゃん、ここはどう読みましたか？

興味深かったです。うちの学部は英語の論文や海外のカンファレンス動画に触れる機会が多いので、文字起こしが綺麗で概要も内容に沿っていたというのは嬉しいポイントでした。

五十八言語に対応しているというのもすごいですよね。

大学生活で使うとしたら、どんな場面を想像しますか？

ゼミのディスカッションとかグループワークの打ち合わせですかね。話し合いに集中しているとメモが追いつかないんですよ。

話者を区別して記録してくれるなら、誰がどのタスクを担当するって言ったかを後から確認できますし。

大学の講義はどうですか？録音したら便利そうですけど。

そこは慎重になった方がいいと思っています。講義の録音を禁止している先生もいますし、講義内容は先生の著作物でもあるので、撮るなら事前に許可を取るのが大前提ですね。

先ほどの通話録音と同じ考え方ですね。

はい。結局、技術的に録音できることと録音していいことは別という話だと思います。

では、最後に記事全体の感想を一言ずつお願いします。

議事録係の議事録係による議事録係のためのレビューという感じで、すごく共感しながら読めました。

いいところだけでなく、振動音やスマホリングといった使ってみないとわからないことが書いてあったのが一番の勝ちだと思います。とりあえず上司に記事のリンクを送ってみます。

普段はスペックや技術の話ばかり見ているので、実際に使う人の目線で書かれた記事は新鮮でした。

特にセキュリティは製品と運用の両方というところは、授業で習う理屈を現場の言葉で書いてくれている感じがして、卒論の参考にもなりそうです。

社会人と学生、それぞれの立場からとても具体的なお話を聞けました。お二人とも今日はありがとうございました。

Powered by Notta.ai

notta

ありがとうございました。

ありがとうございました。

Powered by Notta.ai